

読書が苦手な学習者の語りからみた多読授業の効果と影響

池田 庸子*

(2020年11月9日受理)

Effects and Influences of Extensive Reading from the Perspective of Reluctant Readers

Yoko IKEDA*

(Received November 9, 2020)

Abstract

On the basis of interviews with three students who did not enjoy reading, this paper examines the students' reading behavior and interest in reading along with changes in their interest after extensive reading. When asked why they do not read books, they answered that movies and videos are easier to understand. As for the cause of difficulty in understanding, they identified the complicated character system in Japanese writing comprising hiragana, katakana, and kanji, which can be difficult to comprehend. However, as the students became accustomed to reading through extensive reading, they came to feel that their ability to recognize characters and words improved, which helped them to read faster. Additionally, the students' interest in reading gradually changed as they accumulated reading experience from not liking it at all to wanting to read some materials, depending on the theme.

【キーワード】 多読、読書習慣、質的調査、日本語読解、インタビュー

1. はじめに

近年、日本語教育において多読教育が広く実践されるようになり、多読による語彙力や読む速度の向上といった読解力の向上だけでなく、読書に対する意識の変化など情意面や動機付けにおいて効果が見られたとの報告がされている(二宮・川上2012、二宮2013、佐々木2017)。多読は学習者が自ら本を選んで読むことで初めて成り立つアプローチであるため、学習者の読書への意欲が大きな役割を果たす。しかし、必ずしも学習者全員が読書に対する意欲があるわけではない。池田(2020)は多読授業の学生を対象とした読書習慣に関するアンケート調査で、日本語だけでなく母

*茨城大学全学教育機構 (〒310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan)

語でも全く読まない学生が少なからずいることを指摘した。本稿ではアンケート調査だけでは明らかにできなかった、学習者の読書歴や読書観、多読授業による変化について、インタビューを行い、学習者の語りをもとに考察した。対象としたのは「多読で学ぶ日本語」という多読授業を2学期間履修した学習者で、その中でも特に、「読書が好きでない」と述べた学習者3名（インドネシア1名、マレーシア1名、タイ1名）の語りに着目し、学習者が今まで母語や日本語でどのように本を読んできたか、あるいは読んでこなかったか、その背景を探り、多読授業を通して読解力や読書に対する意識にどのような変化を感じているか検証した。

2. 多読授業の概要

「多読で学ぶ日本語」は日本語初級後半から中級者用の授業で、授業題目からも明らかなように、授業の主たる活動が多読である。授業は1回90分の授業が計15回行われた。初回の授業では多読に関するオリエンテーションを行い、研究から明らかになっている多読の効果、多読のルール¹⁾に関して説明を行った。1学期を通して、2回のブックレポート、多読本の制作を行ったが、通常の授業では、授業内で60分程度の多読を行った。教材として、NPO 多言語多読（旧日本語多読研究会）監修の『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』（レベル0～4）、NPO 多言語多読『にほんご多読ボックス』（レベル0～5）を中心に、自主製作した初級用多読教材、絵本、児童向け文庫などを教室に準備し、学習者は授業中、及び授業外でも宿題として自由に本を選べるようにした。

この授業は茨城大学が実施している「日本語研修コース」の選択科目という位置づけではあるが、コースの開講科目数が限られているため、実際は対象レベルの学習者は全員この授業を履修している。高橋（2016）は学習者の自律性の観点から多読授業を分類しているが、本授業は「授業内多読活動」であり、さらに学習者の授業履修・参加決定において選択の余地がないという点が特徴となっている。読書好きな学習者もそうでない学習者も一律に本を読むことを課している授業である。

3. インタビュー調査

2019年2月に「多読で学ぶ日本語」を2学期間履修した交換留学生に対し、30～60分の個別インタビューを実施した。インタビュー協力者の了解を得て、ICレコーダーにインタビュー内容を録音し、それを文字化した。インタビューでは、日本語学習歴、子供の時の読書体験、中学・高校での読書習慣、読書を好きな（嫌いな）理由、読書に関する意識の変化など、自由に語ってもらった。インタビューは全て日本語で行われた。インタビューを行った学習者の内、本を読むことが好きでないと述べた学習者3名（インドネシア1名、マレーシア1名、タイ1名）の語りについて考察する。学習者の言葉を極力そのまま伝えるため、会話形式と引用を交えた要約の形式とを併用し、読みやすくするために、助詞等の明らかな間違いは一部修正を加えた。＊は筆者の質問を示す。

3.1. 学習者 A

マレーシアの大学に入学後、2年生の時に日本語を学び始める。それ以前の日本語学習歴はない。学習の動機は将来日本で働きたいと思い、そのために日本語を勉強しておいたほうがいいと考えた。また、マレーシアで多くの日本企業が人材を募集しているため、日本語ができれば応募しやすいと考えた。

*：子どもの時、本を読むのは好きでしたか。

A：中学校の時たぶん小説を読んだことがありますけど（中学校では1、2冊読んだことがある）、子供の時は全然。

*：高校は？

A：全然。大学は、自分の専門と関係がある本だけで、それ以外は全然。

*：どうしてですか。

A：本より興味持っているのはビデオみたいなもの。例えば本の1巻を読んだ後、本の2巻を読む、そうすると本の1巻の内容は全然忘れる。勉強の仕方は映画アニメーションみたいなものと声や色がもっと覚えやすい。

学習者Aは読んで覚えたり勉強したりすることが苦手で、それは日本語に限らず、他の教科でもそうであった。また、マレー語や英語でも同様の理由で本は読まないという。実際に多読授業を履修した最初の学期では、授業中でもスマホを見たり、寝てしまったりと集中できていないときもあった。そのことを聞いた。

*：最初の学期はあまり読んでいなかったですね。

A：私 *patience* がない。例えば、その時は日本語を勉強したばかりだから、あまり長い文章がわかりにくいから、もし読んだら1ページ2、3回読まなければならなかった。ちょっと難しいと思う。

*：それはやさしい日本語の本でもそうですか。

A：日本語とひらがなとカタカナと漢字三つの文字が一緒に混ざったら、読む時は区別しにくい。漢字は読めないけど意味は分かる。今は漢字の授業いっぱい取ったからいろんな漢字を勉強した。

*：今学期（2学期目）はどうでしたか。

A：今学期はちょっと変わります。今学期は読むときはいちいち文字を読まなくてもいい。なんかすぐ一行見たら、だいたいの意味が分かる、そういう感じ。興味持っている本は多くなる。

*：どうしてですか。

A：多分面白い本が見つかったから。私が（面白いと）思っている本はもっとレベル高い。例えばレベル4レベル5、でも先学期はレベル4の本はたぶん1時間ぐらいかかった。でも今学期は30分ぐらい（で読める）。

また、1学期目と2学期目との違いとして、2学期目には読めるようになったと感じている。習った文法がやさしい日本語で使われているのを読んで、頭で覚えられる感じがするという。読む速さが速くなったとも述べている。

*：多読の授業で自分のペースで読むのは大変でしたか。

A：あまり大変じゃない。私はトピックに興味を持っているものは読む。例えば、広島原爆の本²⁾、原爆についての本があります。そういう感じの事件は興味を持っていますから。（中略）タイトルによってつまらないトピックは読まない。

*：多読の授業を1年間とって、興味がある本は変わりましたか。

A：ちょっと変わりました。前は日本の昔話はあまり興味持っていない。でも「かぐや姫³⁾」の話を読んだ後、どんどん興味を持った。日本の昔話に興味を持っている。もし昔話の本なら、他の昔話の本が読みたい。

読むこと自体に関する意識の変化としては、多読により日本に関する内容を日本語で読むことによって、「日本人にとっての日本の文化が見える」と感じるようになったという。今までは「いつも外国の情報で日本の文化を見る」ことしかできなかったが、「日本の文化がもっとわかる」と述べ、具体的な例として、原爆の話を挙げ、今まで読んできた原爆の話は、「その時は他の人のために広島で原爆した。でも日本人にとっては原爆したことがフォーカスポイント、視点が違う」と感じている。日本人が書いた内容を他の言語を介さずに直接日本語で読むことに意義を見出しており、今後読みたいものとして、日本の新聞と答えた。その理由として「外国の視点と日本の視点が違いますから。もし外国の視点を見るだけなら、事実がわかりにくいかな。両方の視点を見たら、こういう考えもあるし、こういう考えもある（ことがわかる）」と日本語で読むことに対し前向きな回答をしている。

3.2. 学習者 B

学習者 B はインドネシアからの交換留学生でインドネシアの大学で日本語を専攻している。日本語の勉強を始めたのは大学に入ってからである。

*：子供の時、本を読みましたか。

B：子供の時はあまり本を読まない。映画のほうが分かりやすい。中学、高校の時は小説ロマンスが好きだった。

*：大学に入って日本語を勉強して、教科書以外で日本語を読みましたか。

B：日本語では読まない。全然。漢字がめんどくさいから読まない。やったことがあるけど、最初だけ。読まない。

*：多読の授業を始めたときはどうでしたか。先学期と今学期は違いましたか。

B：難しい。最初の学期は大変でした。みんな読むときは早い、だから、私まだ終わっていない。でも次の学期はもう大丈夫。今学期はもっとレベルの高い本が読めました。早く読めるようになった。

*：どんな作品が面白いと思いましたか。

B：情報をもらったから。お札の話⁴⁾と、相撲の本⁵⁾、この本は日本の文化、日本っぽい本だから、たくさん情報をもらいました。

*：たくさんの中の中からどうして本を選びますか。

B：絵。もしたくさん絵があるなら、面白いと思います。もしその本がたくさん字があったら、めんどくさくて、つまらないと思います。一番は絵です。二番はやさしい言葉だと思います。

*：多読で大変だったことは何ですか。

B：たくさん字がある。そして漢字が読めない。だからいつも辞書とかを見て、言葉を探す。それは大変。高いレベルの本を読むときはちょっと。

他の授業と多読の授業との違いに関しては、自分で読むことが大きな違いだと言い、わからないときに先生に聞けることがいいと評価している。また、やさしい本を読むことに関して、たくさん言葉や漢字の読み方を覚えることができ勉強になったと述べている。

*：どうすればもっと読むようになると思いますか。

B：本の内容。もし面白いなら読みたい感じになります。面白くないなら読まない。グループで話すのはいいと思います。選ぶとき面倒くさいから。このグループでみんな教えて、こ

の本の内容は何ですか。もしこの本が面白そうなら読みたいと思う。

*：読み方は変わりましたか。

B：漢字をたくさん勉強したから、漢字の勉強になった。漢字と文法。「が」とか「は」の使い方とか。

*：読むことについての考え方は変わりましたか。

B：雑誌が読みたいけど、まだ。日本人のツイッターをよく見ます。普通の本はまだ大変。やさしい言葉じゃなくて大変です。難しいから時間がかかるなと思います。

3.3. 学習者 C

学習者 C は日本語を専攻するタイ出身の交換留学生で、日本語の学習を始めたのは大学 1 年生の時である。

*：子供の時はよく本を読みましたか。

C：読みます。タイ語。時々だけです。

*：本を読むのは好きですか。

C：読むのはあまり好きじゃないですね。

それでも中学、高校の時は時々タイ語の小説を読むこともあったという。どんなジャンルが好きか聞いたところ、「ないかな」という回答だった。大学 1 年の時から日本語を勉強し始めたが、教科書以外で日本語を読むことは全くなかったという。好きなジャンルの本はないと答えていたが、多読の本でどんな本が好きか質問した。

*：どういう話が好きですか。

C：日本の昔話が好きです。簡単な日本語。もし読めたら内容がわかるから面白いと思います。漢字が難しかったら、内容は知らないから難しい。あまりわからないからちょっと面白くない。お風呂の話⁶⁾も面白いです。

*：何が面白いですか。

C：昔のお風呂とかお寺のお風呂、今とちょっと違うから面白いです。知らないことがわかるのが面白いです。

*：どうやって本を選びますか。

C：内容を少し見て、この内容面白い。それで読みます。写真とか面白いです。内容とか簡単、そして、よくわかるとそれを選びます。

*：よくわかる本が面白いですか。

C：はい、そうですね。

*：難しい本は面白くないんですね。

C：そうですね。漢字がわからないから、この内容はどういう意味かなと。もし読めるならその方がいいと思います。

*：多読の授業で大変だったことはありますか。

C：多分漢字だと思います。難しい漢字もありますから。もし知らないなら、ちょっと変です。意味はわからないです。

*：多読の授業を受けて、何か変わったことはありましたか。

C：タイにいるときは日本語あまり上手じゃなかったですね。いつもタイ語しゃべるから。でも日本に来た時はタイ語駄目ですね。日本語だけだから。いつも日本語を使うから、日本

語文法とか言葉とかたくさん覚えました。(多読で一番よかったことは)言葉だと思います。たくさん言葉を覚えました。それから、もしその漢字をよく見たら、それを覚ええます。読み方がわかります。他のクラスで文法や言葉を覚えて、それを多読の本で見て、覚ええます。

*：読み方は変わりましたか。

C：前は読み方をあまり知らなかったから。でも、日本にいる時は毎週読むから読み方は変わりました。前は言葉とかあまり知らなかったから、何回も読んで分かった。それは変わりました。

*：読みたくないときはどうしましたか。

C：読みたくないときは、絵を見たら、ちょっとわかります。内容が多かったら読みたくないから、絵を見ます。

*：読むのは好きでしたか。

C：好きじゃないですね。

*：今はどうですか。

C：なんか好きです。好きになりました。

*：どうして好きになりましたか。

C：本。日本の本は面白いから、だから何回も読みたいし、言葉とかも知りたいし。だから、好きになりました。

*：何が読みたいですか。

C：日本の話とか、内容が面白い話とか読みたいです。タイの話も読みたいです。タイの話はあまり読んでないです。

*：タイ語でも読みたいと思うようになりましたか。

C：はい、そうです。

4. 考察

まず、子供の時から母語でも本を読んでこなかった理由として共通しているのが、ビデオや映画などの動画の存在である。学習者Bは「映画のほうが分かりやすい」と述べ、学習者Cは「本より興味持っているのはビデオみたいなもの」と述べている。さらにAはアニメーションや音声、色など視覚に訴える媒体のほうが学びやすいと自身の学習スタイルとして認識している。以前は教科書や本を読んで理解することが学びの基礎とも言えたが、近年学ぶスタイルは多様化しており、本を読まなくてもスライドや動画で学ぶことも可能になっている。今後ますます読むことに慣れていない学習者が増えてくることが推察されよう。日本語の指導だけでなく読むこと自体に対するサポートも必要になるだろう。

日本語で読むことに関しては、文字の認識の難しさに関する言及がみられた。Aは「日本語とひらがなとカタカナと漢字三つの文字が一緒に混ざったら、読む時は区別しにくい」と述べ、Bは大変なこととして、「たくさん字がある」こと、Cも難しい漢字があることだと述べている。多読授業を履修し始めた初級後半レベルの頃は、日本語の文字を読むことに慣れていないことが難しさの要因となっていた。しかし多読授業で日常的に本を読むことによって、徐々に変化してきている。「今学期は読むときはいちいち文字を読まなくてもいい(中略)一行見たら、大体の意味がわかる(A)」と言うように文字を認識する能力が高まったと感じている。

日本語能力の向上に関する言及としては、「早く読めるようになった (A) (B)」「言葉や漢字の勉強になった (B) (C)」など、読むスピードと語彙力の向上を多読の効果として挙げている。さらに文法に関して、A は習った文法を再度やさしい文の中で使うのでわかりやすいことも指摘している、B も同様に文法が身に着いたと述べており、「が」と「は」の使い方など勉強になったことを例に挙げている。

また、挿絵が重要な役割を果たしていることも伺えた。B は本に対する印象として「一番は絵だ」と述べ、C も絵を見ることが理解の助けになっていると述べている。渡邊 (2016) は絵があることで不安の少ない状態で自信を持って多読の活動に参加できる土台になっていることを指摘しているが、字がたくさんあることに抵抗感のある学習者にとっては、挿絵やイラストが次の本を手にするための動機付けの一つの要因となっていることが推察される。

読むこと自体への動機付けとなるのは内容の面白さであろう。あまり本を読んでこなかったと言う A は「トピックに興味を持っているものは読む。例えば広島原爆の本」「前は日本の昔話はあまり興味持っていない。でも『かぐや姫』の話を読んだ後、どんどん興味を持った。もし昔話の本なら、他の昔話の本が読みたい」と述べている。一冊の本に出会うことにより、興味を持つことができ、興味を持つことが次の本を読みたいと思うことに繋がっている。C も、中学・高校の時に好きだったジャンルを聞いた際は「ないかな」と回答していたが、多読授業で読んだ本に関してどんな本が好きか聞いたところ、「日本の昔話が好きです」と答えている。知らないことや経験していないことに関心を持っていないのは当然であろう。換言すれば、読む経験を通してしか読むことが好きになることはないと言えよう。

5. まとめと今後の課題

以上、読むことが好きでないと言う学生 3 名のインタビューをもとに、彼らの読書習慣や読むことへの意識、多読による意識の変化に関して考察した。読まない理由としては、読むことよりも映画やビデオなどの動画のほうが分かりやすいからと考えていることがわかった。分かりにくさの原因にはひらがな・カタカナ・漢字など文字の種類も多く、文字認識の難しさが挙げられていた。しかしながら、多読を通して読むことに慣れるにつれて、文字や言葉の認識能力が向上し、早く読めるようになったと感じていた。また読書が好きでないと言っていた学習者でも、読む経験を積むことで、この分野なら読みたいというように少しずつ本を読みたいという意識に変化していることが明らかになった。

生まれたときからいつでも動画が見られる環境で育ち、母語での読書習慣がない学習者は今後ますます増えてくるであろう。多読においては学習者の自律性が重要であることを認識しつつ、読書に慣れていない学習者を支援するためにはどのような教材や教育方法が有効であるか具体的な指導方法に関して実践と研究を進めていきたい。

謝辞

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) (課題番号 19K00729, 研究代表者: 池田庸子) の助成を受けて行われた。

注

- 1) NPO 法人日本語多読研究会 (現 NPO 多言語多読) では、日本語多読のやり方として、①やさしいレベルから読む、

②辞書を引かないで読む、③わからないところは飛ばして読む、④進まなくなったら、他の本を読む、以上の4つのルールを提案している。

- 2) Aは広島の話と言っているが、長崎で被爆した医師の話である。「永井隆—原爆の地長崎に生きて—」『日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』レベル4
- 3) 「かぐや姫」『日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』レベル3
- 4) 「この人だあれ？お札の話」『日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』レベル3
- 5) 「相撲」『日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』レベル4
- 6) 「日本のお風呂」『日本語多読ライブラリーよむよむ文庫』レベル2

引用文献

- 池田庸子 (2020) 「日本語多読授業における学習者の自己評価」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』3, 45-52.
- 佐々木良造 (2017) 「授業内多読活動に関する自己評価の分析」『日本語教育方法研究会誌』23, 40-41.
- 高橋亘 (2016) 「日本語多読研究に向けた基礎研究—多読活動の類型化の試み—」『言語・地域文化研究』22, 369-386.
- 二宮理佳・川上麻理 (2012) 「多読授業が情意面に及ぼす影響—動機づけの保持・促進に焦点をあてて」『一橋大学国際教育センター』3, 53-65.
- 二宮理佳 (2013) 「多読授業が初級学習者の内的動機づけに及ぼす影響」『一橋大学国際教育センター』4, 15-29.
- 日本語多読研究会 (2006-2014) 『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』アスク出版.
- 日本語多読研究会 (2016-2019) 『にほんご多読ボックス』大修館.
- 渡邊奈緒子 (2016) 「外国語学習における絵本多読の効果—絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー—」『一橋大学国際教育センター紀要』7, 71-82.